

# 4 単語の種類

▼まとめ▲

## ■ 自立語と付属語

単語は、文節を作る場合の働きから見て、自立語と付属語に分けられる。一単語で一文節となることができると自立語とい、その単語だけでは文節となることができず、つねに自立語のあとに付いて文節を作るのに用いられる単語を付属語という。

自立語 付属語 自立語 付属語 付属語  
太陽がのぼりました。

文節 文節

- ◆ 自立語は文節の最初にきて、付属語は最初にはこない。
- ◆ 一文節に自立語は必ず一つあり、二つはない。
- ◆ 一文節に付属語がない場合もあり、いくつもある場合もある。

## ■ 活用

単語は、文中での使われ方によって形が変わるものと、どんな場合にも形が変わらないものとに分けられる。単語が使われ方によって規則的に形を変えることを、活用という。活用する単語の、変わる部分を、語尾(活用語尾)といい、変わらない部分を語幹という。

- ◆ 活用してできた形を活用形という。たとえば、「読む」と

よま	未然形
よむ	未然形
よみ	連用形
よむ	終止形
よむ	連体形
よめ	仮定形
よめ	命令形

右の「よ」が語幹で、——線の部分が(活用)語尾である。

## ■ 体言・用言

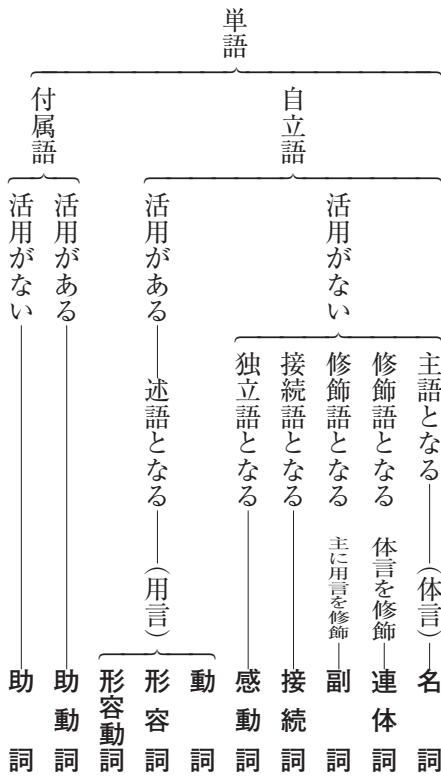
自立語の中には、活用があるかないか、主語になるか述語になるか、という二点から分類した、体言と用言がある。

体言：活用がなく、主語となることができる自立語  
用言：活用があり、述語となることができる自立語

体言 体言 用言 体言 用言 用言  
私はその時、だまって彼を見つめていた。  
自付 自 自 付 自付 自 付 自付

■ 品詞の種類

単語は性質の上から、自立語と付属語とに分けられる。自立語と付属語は、さらにそれぞれ活用のあるものとないものとに分けられる。活用のある自立語は単独で述語になることができる単語で、用言といい、品詞としては動詞と形容詞と形容動詞がそれにあたる。活用のない自立語は主語になることができる名詞（＝体言）と、主語にはならないが修飾語になる副詞と連体詞、接続語になる接続詞、独立語になる感動詞に分けられる。付属語のうち、活用のあるものは助動詞であり、ないものは助詞である。これを一覧表にすると、次のようになる。



◆ 代名詞を一つの品詞として立て、体言を、名詞と代名詞の二つとする考え方もある。

◆ 用言のうち、動詞は言い切りの形（終止形）がウの段の音で終わる。形容詞は言い切りの形（終止形）が「い」で終わる。形容動詞は「だ」で終わる。

行く —— 動詞  
 美しい —— 形容詞  
 静かだ —— 形容動詞

■ 単語のなりたち

複合語 もともとは二つ以上の単語であったものが結びついて一つの単語になったもの。

春＋風 → 春風      鳴き（鳴く）＋声 → 鳴き声  
 接頭語・接尾語 それだけでは単語の資格を持たず、他の単語に付いて、ある意味を添える語。

接頭語＋単語 → 真心（＝単語としてあつかう）  
 単語＋接尾語 → 重み（＝単語としてあつかう）

品詞の転成 一つの品詞がもとの形をあまり変えずに、他の品詞に転じることを品詞の転成という。

光る（動詞） → 光（名詞）  
 楽しい（形容詞） → 楽しむ（動詞）  
 おとな（名詞） → おとなしい（形容詞）



1 次の各文の自立語の横に——線をつけよ。

① 近代に入っても、優れた歌人が現れました。

② 彼らにとっては、野生動物は、命の綱であった。

③ この詩は後半がすばらしい。

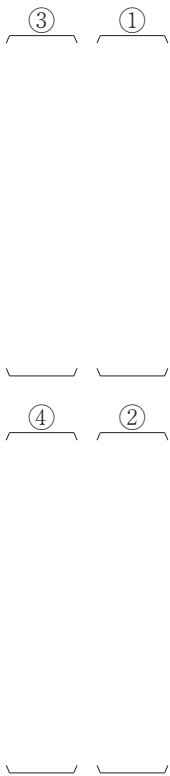
④ 米の一粒にも、自然の恩恵があり、農民の労苦が宿っている。

⑤ 学校から帰って、弟と公園へ行った。

2 次の文を単語に区切り、それぞれの単語があとの①～④のどれに属するかを考え、分類せよ。

学校につくと、先生が校門のところまで待っていた。

- ① 自立語で活用がある
- ② 付属語で活用がある
- ③ 自立語で活用がない
- ④ 付属語で活用がない



3 次の文は品詞についての説明である。それぞれの品詞についての説明か。あとから適切なものを選び、記号で答えよ。

- ① 自立語で活用がなく、独立語にだけなる。
- ② 付属語で活用がない。
- ③ 自立語で活用があり、述語になって、「い」で終わる。
- ④ 自立語で活用がなく、主語になれる。
- ⑤ 自立語で活用がなく、主に連用修飾語になる。

- ア 助動詞
- イ 副詞
- ウ 名詞
- エ 動詞
- オ 感動詞
- カ 助詞
- キ 連体詞
- ク 形容詞
- ケ 接続詞
- コ 形容動詞

①
②
③
④
⑤

4 次の文の——線の語を、① 動詞、② 形容詞、③ 形容動詞に分け、書き抜け。

その静かな町で、私は美しい町並みをながめ、ここには時間にかかわらない安定した世界があると思つた。



5 次の語は、ア 複合語、イ 接頭語のついた語、ウ 接尾語のついた語のどれか。記号で答えよ。

- ① むし暑い
- ② 春めく
- ③ 泣く泣く
- ④ ほの暗い



1 次のア～エの中で、品詞の説明として誤っているものはどれか。記号で答えよ。

- ア 助動詞は付属語である。
- イ 助詞は付属語である。
- ウ 形容動詞は自立語である。
- エ 接続詞は付属語である。

2 「積み重ねる」という複合語のでき方について、次から適切なものを選び、記号で答えよ。

- ア (動詞+動詞) → 動詞
- イ (動詞+動詞) → 名詞
- ウ (名詞+動詞) → 動詞
- エ (動詞+名詞) → 名詞

3 次の①・②の——線部には、それぞれ文法上異なるものが一つずつある。それを選び、記号で答えよ。

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <p>①</p> <p>ア なつかしい</p> <p>エ すずしい</p> | <p>②</p> <p>ア 休みはできるだけ本を読むつもりだ。</p> <p>イ 彼女は<small>かのじよ</small>この春旅行するそうだ。</p> <p>ウ 彼は<small>かれ</small>この四月に帰るらしい。</p> <p>エ 彼はそんなことでは喜ぶまい。</p> |
|---------------------------------------|--|

4 次の——線部①～⑥の単語の品詞名を漢字で答えよ。

① このクラブはできてから間もないので、まだ部員数は少ないが、先週から活動を始めた。② 部員は学校の美化に協力し、③ どんな花でもよいから持つてくることにしている。

- |   |   |
|---|---|
| ④ | ① |
| ⑤ | ② |
| ⑥ | ③ |

5 次の文から、( )内の品詞の単語を選び出し、文中の形のまま書き抜け。

- ① 充実じゅうじつした学園生活を営むためには、心身ともに健全さを保つことが何よりも大切である。(形容動詞)
- ② 科学の進歩は、あらゆる面で人類の生活を改善するのに役立つように思われている。(連体詞)
- ③ 私たちは、こんなわらべ歌は一般いっぱんに都会には少ない、とたいてい思っている。(副詞)
- ④ 気丈きじやうな彼は私の思ったほどはつきりと驚おどろく様子もなかった。(形容詞)

- |   |   |
|---|---|
| ③ | ① |
| ④ | ② |

4 単語の種類